

気軽にお散歩    (静岡県・下田)

静岡県伊豆半島南部に位置する下田市は、美しい海岸線と、沖合を流れる黒潮が育む魚介類を目玉にした観光業がさかん。古くから江戸―大阪間の海路の要所で、舟番所が設置されていた。安政元（1854）年には函館とともに外国に開港された。

伊豆急下田駅で降りると、心なしか日差しが強く感じる。下田駅からすぐの乗り場からロープウェイに乗り、寝姿山頂上へ向かう。寝姿山は高さ約200メートル、その形が女性の仰向けになった姿に似ていることから、名付けられた。嘉永2（1849）年にイギリスの測量船マリナ号が入港したことを機に、山頂に見張り所が設けられた。

山頂駅に着くと、眼下に下田港が一望できる。海岸線がきれいなカーブを描いている。天候によっては、伊豆七島を望む事もできるとのこと。山頂は自然公園として整備されている。せつかなので、起伏のある園内をゆっくり歩く。赤や黄、紫など、花々が目を楽しませてくれるので、日差しの強さもだんだん気にならなくなった。

花に目を奪われていると、神社が見えてきた。縁結びにご利益がある、愛染堂だ。ハート型の絵馬がたくさん吊るされている。本堂の横に石碑とわらのような物で編まれた輪を見つけた。何だろうと思い見た看板によると、「和み玉」という石を投げて輪を通し石碑に当てると、周囲の人との「和」が深まるというもの。輪を通すくらいはできると思い、4回トライしたが残念な結果に。悔しく思いながらも、ロープウェイの時間を思い出し乗車、再び下田駅前へ。

駅前から10分ほど歩き、ペリーロードと呼ばれる小道を目指す。黒船ゆかりの地だからか、町中にはアンカーのモニュメントが多い。民家や飲食店が並ぶ中を抜けると、川沿いに建物が建つ通りに出た。このペリーロードには明治・大正時代に建てられた洋館や古民家が多く残る。レストランやカフェがあり、和風な外観ながらしゃれた雰囲気。店内からはジャズがかすかに聞こえ、リズムに乗って歩きたくなる。

開港の地・下田で美しい海と、町中の所々で感じられる歴史を楽しむことができた。下田公園では6月中はアジサイが楽しめる。ぜひ見に行ってみよう。

「海員だより」